

2020年度第3四半期決算説明会 主な質疑応答（要旨）

日時 : 2021年2月10日（金）16時00分～17時00分
当社出席者 : 常務取締役 竹内則夫、取締役 古川敏之

主な質疑応答 :

【時計事業】

- Q) 売上高の見通しを引き下げた一方で営業利益の見通しを引き上げた背景について。
- A) 営業利益については、第3四半期実績が想定を上回り、その分の上方修正を行った。北米市場は流通在庫の重さを考慮し厳しく見ていたが、EC販売を中心に堅調に推移した。また、中国市場においても「独身の日」の販売等が好調だった。コロナ禍ではあったが主に北米、中国の上振れが利益上昇に寄与した。北米市場は広告宣伝投資を積極的に行った結果が出ている。売上高については、新型コロナウイルスの再拡大に伴うロックダウンが実施されており、引き下げた。
- Q) 2021年度の考え方について。
- A) 外部環境を考慮する必要があるが、構造改革を実施し、製造部門の利益体質は強化された。また、主力市場である北米市場は流通在庫の健全化が進み、通常の状態に戻り始めたと認識している。2021年度は流通在庫を懸念せずに販売活動を行えると考えている。時計需要が戻ってくれば売上回復につながっていくと見ており、黒字化に向けて取り組んでいく。
- Q) ムーブメントの損益改善について。
- A) 機械式ムーブメントが順調に推移している他、アナログクォーツについても次年度に向けた商談が進むなど動きが出ている。在庫も健全化しており、流通在庫の問題も解消されている状況。市場が回復すれば損益も改善すると見ている。
- Q) 2021年度の広告宣伝費の見通しについて。
- A) 売上高の回復に伴い、広告宣伝費も積極的に行っていかなければならない。内容としてはデジタル化に注力しており、従来型のメディア広告に比べコントロールしやすい面がある。売上高、利益の状況を見ながら柔軟にコントロールし、黒字化を目指しながら必要な投資を行っていきたい。

【工作機械事業】

Q) 工作機械事業の第3四半期実績について。

A) 中国市場は回復基調にあり元々期待があった地域だったが、中国市場に加え欧州市場が安定的に強く想定を上振れた。回復が遅れていた北米市場も在庫調整が進んだほか、医療関連の設備投資も再開されたことで想定以上の推移となった。

Q) 工作機械事業の利益改善が進んだ背景について。

A) 第3四半期は、欧州向け構成比が高まったことで、営業利益率が大きく上向いた。現在の受注トレンドを見ると、欧米市場が右肩上がりであり、今後売上に繋がってくればさらに利益率の改善が期待できる。

Q) 足元の旺盛な受注が売上高へ反映される時期について。

A) 受注のリードタイムは4~5カ月程度かかっており、従来よりも伸びている。12月以降の受注は、来期の売上高貢献を期待している。

以 上